レンタルキャンピングカーox　設備等の使用方法　予備知識

１、運転について

　普通車より少し車体は幅広で、高さは３ｍ２０ｃｍありますので、学校・ホテルなどの玄関アーケード又は歓迎アーチ・バルコニーなどにぶつかる危険性があります、また道路沿いにある立ち木・看板・ミラーなどにもぶつかる可能性がありますので、高さには特に注意してください。（過去２年間で屋根を損傷した事故は３回あります。）

（運転前の始業点検について）

　貸し渡し日は、当店にて始業点検してレンタル致しますが、２日目以降は毎日お客様が、始業点検しなければなりませんが、次の点は、当店にて点検し補充していますので、お客様は点検しなくてもＯＫです。

エンジンオイル補充・ウインドウウオッシャー液補充・バッテリー液補充・エンジン冷却液（クーラント）補充・エンジンベルト等の点検と交換

（レンタル開始時のキャンピングの装備と準備作業についての説明） 　レンタル開始前には、当店においてすべての点検と補充を済ませてお客様にレンタル致しますのでご安心ください。（飲料水タンク満タン・トイレ流し水満タン・ＬＰガスは日数により充分な量を搭載してレンタルいたします。）

（１）エンジンスタートについて

　この車は、ジーゼルエンジンですので、グロー（予熱）してエンジンをかけるシステムになっています。スタータースイッチ（エンジンスイッチ）をｏｎにするとこの予熱表示灯（コイル線表示）が点灯し、完了すると同時に消灯しますので、この消灯を合図にエンジンを始動してください。

（２）ハンドルの位置調節

快適運転のために、ハンドルの位置を前後に移動できます。（停車中に調整のこと。）

（３）バック（後進）の注意

バックアイカメラ（モニター）が装備されていますが、このカメラにのみ頼らずに、事前に自分の目で後方確認をしてから、左右のサイドミラーも見ながらバック（後進）することがより安全です。補助者の誘導でのバック（後進）はより安全です。

ワンポイントアドバイス 　駐車場等に駐停車する時は、出る時の事を考えて駐停車の場所を決めるのが賢明です。（前進で入って駐停車して、前進で出られる場所が見つかれば理想的な場所です。） 　※バック（後進）は、出来るだけしない運転が安全運転になります。

（4）　走行時のスピード

　スピードは、出そうと思えばそれなりに出ますが、急な凸凹があると車体が大きく揺れたり、ジャンプしたりして、車内の食器等の荷物が落ちたりしますので、あくまでも、ゆっくりドライブが適しています。

車間距離を充分とって走行すること、ゆっくり運転がキャンピングカーには適しています。

・　オーバーヒートについての注意点(ワンポイントアドバイス)

長い上り坂が続くと、キャンピングカーは重量が３トン以上あるためにオーバーヒートする場合があります。高原の露天風呂・摩周湖への長い上り坂等は特にエンジンが過熱してオーバーヒートになりがちです。

　こんな時は、エンジン温度に注意し、温度が上昇した時は、アイドリング状態(エンジンをかけたまま)で車を停車して温度が下がるのをしばらくお待ち下さい。

しばらくすると、冷却液が循環されて温度が下がります。

　また、峠に到着後は、しばらくアイドリング状態でエンジン温度が下がるまでエンジンを切らないで下さい。

（5）オーバードライブ（ON・OFF）の操作について

通常運転では、ON で使用してください。

坂道の下りでは OFF して軽いエンジンブレーキとして使用してください。(長い下り道ではフットブレーキを長く使用しつづけると過熱して性能が落ちることがありますので、ぜひこれを使用してください。)

※このオーバードライブは、チェンジレバーがＤの位置でのみ働きます。(詳しくは、車の取り扱い説明書をご覧ください。

（6）走行モード切替スイッチ（運転席右前）の操作について

このスイッチを押すと「空車モード」になり、走行モード表示灯が点灯します。

・通常の使用は、この「空車モード」(積荷のない時のギヤチェンジモードです。)

・ギヤーが早めにシフトアップして燃費性能・静寂性が増します。

（7）　助手席側サイドミラーの格納（収納）

・せまい場所に駐車する時等利用してください。

(運転席左前に押しボタン有ります。)

２、駐停車時について

（1）　チェンジレバーの収納

　チェンジレバーを左側（助手席側）に倒して収納できます。

長期駐車・キャンプ等で車をしばらく動かさない時に使用すると便利で安心。

※パーキング状態を固定しますので、より安心してキャンプできます。

※運転席、助手席の移動がし易くなります。

※これと併せて、サイドブレーキをかけておけば、２重のロックでより安心してキ

ャンプできます。

（２）　車のドアの施錠について

①　運転席側を施錠すると助手席側も同時に施錠されます。(運転席側で開錠すると助手席側も同時に開錠せれます。しかし助手席側では同時施錠はできません。)

②　リアドアーは、右へ回すと開錠、左へ回すと施錠できます。

※開錠した時にはキーを縦に真っ直ぐの状態にもどしてから抜いてください。

（※鍵穴が、この縦に真っ直ぐの位置になっていないと、内側から手動ノブで施錠することができませんので、ご注意ください。）

（３）　トイレの使用について

トイレの汚物は、右側（運転席側）後方に収納されているカセットタンクに溜まります。トイレ本体下（便座の下）に汚物の溜まり状況が表示されるようになっています。(緑色から赤色表示へ)　満杯（赤色表示）になると廃棄しなければなりません。満杯になると重くて処理に苦労しますので、公衆トイレ・ガソリンスタンド等でチョット早めに廃棄してください。

ワンポイントアドバイス

①　トイレは、昼間はできるだけコンビニ・道の駅・ガソリンスタンドなどで済ませて、夜間にのみ車内トイレを使用するのがいいと思います。

②　トイレの汚水は、たくさん溜めると、廃棄する時、運ぶのが重くなりますので、まだ軽いうちに早めが、賢明かと思います。

③　水洗トイレ水の補給は、トイレ汚水の上に給水口が有りますので、ホース等で給水できます。(お貸しする時は、満タンに給水しますので、利用者の方が給水することは無いと思います。)

（４）水タンクの補給などについて

８０リッターのタンクに満杯に給水して貸し渡しいたしますが、途中不足となったときは、各利用者で給水していただくことになります。給水の仕方については、別冊オックス取扱説明書をご覧下さい。(当日説明もいたします。)

（車内での、ガス使用でのお湯・水の使用方法は、説明書をご覧下さい。当日説明有り。）

（５）LP ガス使用の準備作業について

①　リヤドアーの左下部にＬＰガスが収納して有りますので、収納庫の鍵（２箇所）を開錠し、扉を上側車体に有る扉ホルダーにしっかりと取り付けます。中の右側にＬＰガス（５Ｋ ボンベ）が入っていますので、タンク最上部にある緑色のバルブを左に約１回廻すと、バルブが開きガスが供給されます。(バルブは全開する必要はありません。むしろ万が一の時に早く閉めれるように、１回転ぐらいで使用するのが良い方法

です。）
（ＬＰガス収納ドアは開けたまま御使用ください。）
②　プロパンセーフのスイッチを ON にします。（通常は、このスイッチは ON のままにしてありますので、この操作は、必要ありませんので、次へ進んでください。）
③　次に、ガスレンジ上部の集中スイッチパネルの「ＬＰアラーム」スイッチをＯＮにします。
※ガスの元栓を開ければガスが使えると思っている方がいますが、元栓を開けただけではガスは供給されません。安全確認のためのシステム「LP アラーム」のスイッチを ON しないとガスが供給されません。
・プロパンセーフがピーと音がしますが、止まると同時に緑ランプが点灯します。（ピーと音がしないときも有ります。）これでｏｋです。
これで、カットオフバルブが開き、ガスが各機器に供給されます。
・（ピーという音が止まらない時は、そのまま１分間くらい音を出し、再度「ＬＰアラーム」スイッチで「ＯＦＦ」「ＯＮ」を繰り返してください。
・プロパンセーフのスイッチが「Test」になっていると音が止まりません。ＯＮにしてください。(通常は ON の状態になっています。)
・フマキラー・ヘアースプレー・香水等の溶剤に反応して、作動することがあります。このようなときは、いったん窓等を開けて、室内の空気を換気してから、又は電気掃除機等でプロパンセーフ内の空気を吸い出してください。
・プロパンセーフの橙色のランプ（Ｍａｌ　ｆｕｎｃｔｉｏｎ）が点灯し続ける場合、本体の故障が考えられますので、点検を受けてください。
※まずは、ここまでで、各ガス機器の使用方法は、別に説明します。

（６）ガスレンジの使用説明
（前段の準備作業が終わった段階からの説明です。）
①　ガスレンジのガラス天板を起こします。
②　マッチ、又は着火ライター等の炎をセンサー近くのバーナーへ近づけます。
③　この状態のまま（炎をあてながら）火力調整ツマミを炎マークに合わせ、押し込みます。（ガスが供給されて着火するはずです。点火後３～５秒間、ツマミを押したままにしてください。「立ち消えセンサーを熱するため。」）
※使いはじめや、ガスボンベを取り替えた時、長期間使用しなかったときなどは、ガス管内に空気が入っていて、点火しにくい場合があります。このような時は、炎を近づけたまま、しばらくツマミを押し続けてください。
④　着火後火力調整ツマミの「大きい炎」と「小さい炎のマーク」の間で、必要に応じた火力調節をして使用ください。

注意

・ガスレンジを使用する時は、ロールカーテンを巻き上げてください。

・走行中は、ガスの元栓を閉め、ガスレンジは使用しないでください。

・ガスレンジ使用中は、レンジフードを使用し、窓を開けるなど換気してください。

・風や煮こぼれなどで、火が消えることがあります。使用中は、そばを離れないでください。

・ガスの臭いがしたら、ガスの元栓を閉じ、窓とドアを開け、充分に空気を入れ替えてください。この時レンジフードやルーフベンチレーターなど電気器具のスイッチを絶対に操作しないでください。スイッチの火花で爆発することがあります。

・ガスレンジ使用中の外出や就寝は、絶対にしないでください。

・ガスレンジ使用中は、レンジのまわりに、物を置かないでください。

（７）ウオーターヒーターの使い方

①　ウオーターヒーターに水を入れる。

・集中スイッチパネルのウオーターポンプスイッチを「ＯＮ」にし、キッチン蛇口のお湯ノブ（Ｈ マーク）を開けて水がスムースに出るようになれば完了です。

（※ウオーターヒーターをＯＮする前に、必ずこの方法で水を入れることが必要です。）

②　ガスの元栓を開ける。（ＬＰガスの使い方を参照してください。）

（すでに、ガスの元栓を開けている場合は、次へ進む）

③　ウオーターヒーターのスイッチを入れる。

（※①の水を入れることが済んで、はじめてここでヒーターのスイッチをＯＮします。）

・ウオーターヒータースイッチは、集中スイッチパネルにあります。

・スイッチを入れると、集中スイッチパネルのｗ／ｈランプが点灯し、自動点火後、ランプが消えます。

・新車時やガスボンベを入れ替えた時などは、ガス管内に空気が入っていて、自動点火しにくい場合があります。このような時には、もう一度ウオーターヒータースイッチを入れなおしてください。

④　使い終わったら・・・・・

・集中スイッチパネルのウオーターヒータースイッチを切る。

・ガスの元栓を閉じる。

注意

・スイッチを入れる前に、必ずウオーターヒーター内に水が入っていることを確認することが大事です。空だきは危険です。

・走行中は、ガスの元栓を締め、ウオーターヒーターは使用しないでください。

・ウオーターヒーター点検口カバー部分に、燃焼用空気出入り口があります。熱くなりますので、触れたりしないよう注意してください。また、不完全燃焼の原因になりますので、

ふさいだりせずに、通気をよくして使用してください。
・使用中異常を感じたときは、ウオーターヒーターの使用を中止し、すみやかに点検を受けてください。

（８）シャワーの使い方

・集中パネルスイッチの「ウオーターPump」スイッチをＯＮします。
（緑色ランプがつきます。）
・お湯を使うときは、前記の「ウオーターヒーターの使い方」を参照してください。
・シャワールームキャビネット中央部（カガミ兼小物入れの下）にノブがついています。（洗面台としてしようする時は、凹部分を手前に引くと開きます。）
・次にシャワーノズルを右上（天井付近）にあるフック又は左下（洗面台左）のフックにかけて使います。（フックが回らないよう確実に差し込んでください。）
・シャワーとして使う時は、必ずシャワーカーテンを引いてから使用してください。
（室内側に水がもれる恐れがありますので、カーテンを使用してください。）
Ｃノブ・・・・水がでます。（手前側）　Ｈノブ・・・・お湯がでます。（奥側）

注意

・始めにＨノブを開けると、熱湯が出て、やけどの危険性がありますので必ず先にＣノブを開けて、水を出してから水温を調節してください。

・使用中にポンプによる波打ち（ハンチング）が気になる時は、蛇口で吐水量を調整し使用してください。

（９）冷蔵庫の使い方

・冷蔵庫は、DC１２V・AC１００V・ＬＰガスの３通りの方法で使用できます。
・冷蔵庫正面の操作パネル右部分がＬＰガスで、左部分がＤＣ１２ＶとＡＣ１００Ｖの操作に使用します。

①「DC１２Ｖで使用する場合」(エンジン駆動中にのみ使用できます。)
・エンジンを始動します。
・冷蔵庫の DC ボタンをＯＮ側へ押します。（赤のパイロットランプが点灯します。）
・エンジンを止めると、冷蔵庫へのＤＣ１２Ｖ供給が自動的に止まります。
（停止中やキャンプ中には、１２Ｖでは使用できません。この時は、ＡＣ１００Ｖ又は、ＬＰガスを使用してください。）
・ＤＣ１２Ｖで使用中は、温度調整できません。（温度設定ダイアルは働きません。）

②「AC１００Ｖ電源で使用する場合」
・AC１００Ｖ外部入力コードを接続した時に働きます。（接続の仕方は「AC100Ｖで充電する時」を参照してください。
・冷蔵庫の AC100Ｖボタンを ON 側へ押します。

(緑色のパイロットランプが点灯します。)
・温度調整ツマミで必要に応じた温度セットをして使用ください。
③「LP ガスで使用する場合」
①ＬＰガスボンベの元栓をゆるめ、集中スイッチパネルの「LP アラームスイッチ」を ON にします。(ＬＰガスの使い方を参照)
②左にある温度調整ツマミを「7」に合わせます。
③冷蔵庫のガス点火スイッチ（☆印）(赤色)を ON にします。（赤のパイロットランプが点滅を始めます。）・・・・・・（これで点火準備状態になります。）
④「ガス開閉ツマミ」を押しながら左へ回して「炎マーク」に合わせ、点火するまで押し続けます。（バーナーが点火すると、パイロットランプの点滅が止まります。）
※参考までに
(静かな車内で点火の音を聴くと「チ・チ・チ・チ・チ（点火している音）・ボーッ（着火した音）」と聞こえます。聞こえないときは、冷蔵庫を開けて庫内の音を聞くと、この音が分かり、着火が確認できます。)
※着火されれば赤のパイロットランプは消灯します、着火しなかった時は再度点滅に戻りますので、再度着火をしなおしてください。
・左側の温度調整ツマミで必要に応じた温度に調整します。
・使い始めのときなどは、ガス管内に空気が入っていて、点火しにくい場合があります。このようなときはしばらく「ガス開閉ツマミ」を押し続けてください。
・炎が何らかの理由で立ち消えした時は、自動的に点火スパークが始まり、再点火しますので、ガス使用中は、点火スイッチを ON のままにしてください。

「ＬＰガス使用を終了する時」
・ガス点火スイッチをＯＦＦにします。
・「ガス開閉ツマミ」を右へいっぱいにもどします。
・レンジフードの「ＬＰガススイッチ」を切ります。
・ガスボンベの元栓を閉じます。

「通気口カバー(車体外部左後方)について」
・通常はカバーを取り付けたままで使用しますが、冷蔵庫の冷えが悪いと感じたときは、取り外すと効果的です。
・冷蔵庫を使用しないときや、雨・雪・洗車等のとき、また走行中は、カバーをつけてください。

この外　冷蔵庫の使い方について
「ドアロックと半開きについて」

・ドアは全開と半開きの状態でロックすることができます。それぞれの穴に合わせてノブを押し込んで少し回すとロックになります。
・走行中などは、振動などで開かないように、必ずロックしてください。
・長期間使用しないときは、半開きにしてカビや臭気を防ぐことができます。

注意

・冷蔵庫の能力を発揮させるために、次のことを守ってください。
・車を水平にする。・・・・冷蔵庫は、５度以上傾いていると冷えが悪くなるか全く冷えません。
・車の左側面を日影にする・・冷蔵庫背面に、日光をあてないようにすると冷えやすくなります。
・予冷をしておく。・・・・・一晩程度、庫内を予冷しておくと、冷えやすくなります。また、中に入れる物をあらかじめ冷やしてからいれることをおすすめします。
・強い雨の時には、冷蔵庫背面の通気口から雨が吹き込むことがありますので、車の向きをくふうするなどしてください。
・冷蔵庫背面の通気口は、冷蔵庫を冷やすための外気口とガスで作動している時の、燃焼用の酸素を取り込む所でもあります。ふさいだり、中に物を入れたりしないでください。(一酸化炭素中毒や、火災の原因となります。)
・冷蔵庫背面の通気口カバーを取り外した際は、確実に取り付けてください。
・ＬＰガスでの使用中は、ときどき「ガス点火スイッチ」のパイロットランプが点滅していないか確認して使用してください。（消灯で正常に点火しています。）
・冷蔵庫を使い終わったら各スイッチを切り、ガスの元栓を確実に閉じて下さい。
・走行時には、ガスの元栓を確実に閉めますので、ＬＰガスでの使用は出来ません。
・ＬＰガス使用中は、時々換気しながら御使用ください。

（１０）リヤヒーター(ＦＦヒーター)の使い方

・このヒーターは軽油を使用する FF 温風暖房機です。停車中・走行中にかかわらず使用できます。
・車室内の空気を全く汚すことなく安全で快適に使用することができます。
・スイッチとルームサーモにより室内をいつもお好みの温度に保つことができます。
・FF ヒーター本体とコントロールユニットは、対座シート(後側)にあり、室内吸気口１箇所と室内吹出口１箇所・シャワールーム(兼トイレ)吹出口１箇所あります。
・シャワールームを乾燥室としてご使用の場合は、シャワールームベンチレーターを開けて下さい。(ファンを回す必要はありません。)
・ＦＦヒーターを使用するにあたっては、ミクニヒータ-取扱説明書をお読みいただき正しい操作方法をご理解のうえ、安全にお使いください。

① 運転操作の方法

運転操作を始める前に

・操作盤(デジタルタイマー)には、手動 ON/OFF、タイマーON/OFF の機能があります。

ヒーターの運転を始める前に、タイマー操作方法お読みください。

② 運　転

操作盤(デジタルタイマー)の初期状態表示は、{　８８：８８　} 点滅表示です。(このとき、時計ボタン（時計マーク)、運転ボタン(炎マーク)以外は機能しません。)

・時計ボタンで時刻セットしています。(時計ボタンを押すと現在時刻が表示します。)

１．運転ボタン(炎マーク)を１度押してください。自動的に着火し燃焼します。

２．１の運転ボタンを押すと、液晶表示部に「炎マーク」と残り運転時間「　：３０」が表示され、モーターが起動して前掃気を行います。約３０秒後にグープラグの予熱が開始し、さらに２０秒後に燃料が供給され、燃焼が始まります。それから約２分後にグロープラグへの通電がカットされ、定常燃焼になります。タイマーのボタンで運転時間を任意に設定できます。

注意　スイッチ投入後、約5分２０秒経っても定常燃焼しない場合は燃料ポンプが停止し、ヒーターは掃気後に自動停止します。(Ｅ－12 表示) この場合運転ボタン（炎マーク）を一旦押してリセットし、エラー表示が消えてから再度運転ボタンを押すことによって、運転が可能となります。但し、２回繰り返しても定常運転しない場合は、別添の取り扱い説明書を参考に原因を取り除いてから改めて運転を行ってください。３回以上連続してＯＮＮ、OFF することは燃料が燃焼室内に溜まり、危険ですのでやめてください。

③ 停　　止

運転ボタン（炎マーク）を押してください。液晶表示部の表示が消え、燃焼が止まります。ヒーターの燃焼室内が十分に掃気、冷却されるとヒーターは自動的に止まります。この間約９０秒～１８０秒かかります。タイマーの設定された運転時間が経過した場合も停止します。

注意　ヒーターを停止させる時は、必ずヒーター用の運転ボタン（炎マーク）で行ってください。直接電源を切って止めますと、燃焼室内の掃気、冷却ができないため、過熱やカーボン堆積により故障の原因となる場合や次の運転時の障害となる場合があります。

危険　ヒーター燃焼中にメインスイッチを切ることは、ヒーターの寿命を著しく縮める

だけでなく、ヒーター本体が異常加熱して車両火災や火傷などの可能性があり、大変危険です。

２）過熱時の注意

運転中何らかの原因でヒーターが過熱すると過熱用サーモスイッチが作動し、約３分の掃気後ヒーターは停止し、過熱表示（大小の炎マークが交互に液晶表示部に表示）されます。この場合過熱の原因を調べて、その原因を必ず取り除いてください。

再始動はヒーターが冷却したのを確認のうえで、ヒーターの運転ボタンを押して一旦リセットした後、再度運転ボタンを押せば可能です。

※　着火しない場合、３回以上の運転ボタンの操作をしないでください。何回もミス着火を繰り返しますと、燃料が燃焼室内に溜まって危険です。不着火の原因を除いてから再び運転操作に入ってください。

注意　①ヒーター運転中及び掃気中は、車両のメーンスイッチ（バッテリースイッチ）は絶対に切らないでください。

②着火直後は、燃焼室が冷えているため、しばらく排気管から白煙が出る場合がありますが、異常ではありません。

③車両に電気溶接を施すときは、バッテリーから＋、－のケーブルを外してください。

④ヒーター本体の周辺温度は 40℃を超えないようにしてください。

⑤エンジン停止中のヒーターの使用はバッテリーを消耗させます。そのため、ヒーター使用時は、適宜エンジンを回すことをお勧めします。バッテリーの状態を定期的にチェックし、必要なら充電してください。

⑥オフシーズンでも少なくても月１回１０分程度ヒーターを運転して下さい。これが行われないと故障が起こる可能性が有ります。

⑦長時間（例えば３日間以上）車を使用されなかった場合には、３０分以上エンジンを回し、バッテリーの状態を安定させることをお勧めいたします。冬期は特にバッテリー電圧にご注意ください。

３）各種安全装置について

①不着火時安全装置

運転操作を行った時にグローランプの断線等によって着荷しなかった時に燃焼室内に燃料がたまることを防止するための安全装置です。作動した時は、エラーコードナンバー（Ｅ－１２）が表示されます。

②過熱防止自動停止装置

ヒーターの運転中に暖房空気の吸入管が、布や紙等でふさがれたような場合、ヒーター本体が異状に過熱します。このような場合にケーブル等の焼損を防止するための安全装置であり、作動時は、大小の炎マークが交互に表示されます。

４）ルームサーモについて

ルームサーもセンサーはいつも車室内を快適な温度に保つため標準装備されています。ルームサーモセンサーは車室内適当な場所に取り付けられており、任意の温度を設定されることによってヒーターの運転を自動的に熱量レンジ切り替えや ON／OFF するものです。

注意　電源接続時の室内初期設定は２０度となっています。室温が２０度以上になっている場合は、ヒーターが待機状態となり、燃焼は開始されません。ただし、残り運転時間は減っていきます。

５）使用燃料について

燃料は必ず軽油をご使用ください。(ガソリン、灯油、A 重油又はそれらの混合油は絶対に使用しないで下さい。

注意　燃料の中に燃料凍結防止剤を混入することは絶対にやめてください。

ヒーターの燃料として軽油を使用しますので、特に平地から山間地域又は温暖地域から寒冷地域へ出かけるときなどには軽油のグレードを確認してください。例えば外気温０度以下の地域で通常の軽油を使用しますと燃料が完全に凍結する前にパラフィンが析出し、これがフィルターに詰まって燃焼不良を引き起こします。この現象はヒーターの様な燃料消費の少ない機器にには特に早期に発生します。メインエンジンの様に燃料消費の多いものは比較的に発生が遅くなります。(同じ燃料を使用していても、メインエンジンがかかってもヒーターが作動しないことがあります。)

参考　ミクニヒーターの燃料(軽油)の適正使用について　　JIS K 2204

気温/燃料	２号	３号	特３号
0℃まで	○	○	○
－5℃まで	○	○	○
－15℃まで	×	○	○
－25℃まで	×	×	○

※　市場での燃料は、品質的にバラつきがある場合がありますのでご注意ください。

危険　燃料タンクに給油する場合には、ヒーターの運転は必ず停止してください。

６）故障のときには

①トラブルシューティング(ミクニヒーター取り扱い説明書１６ページ)を参照してください。また、故障の部位の発見を容易にするためにデジタルタイマー表示部にエラーコードナンバーを表示する「自己診断機能」を設けております。この表を参照することによっ

てどの部位が不具合であるか容易に判りますのでご覧ください。(ミクニヒーター取り扱い説明書１7ページ)

７）タイマー操作方法

① 電源投入時

(1) 「 ８８：８８ 」 ← 初期状態表示 表示点滅。(0.5 秒 ON 0.5 秒 OFF)

(2)この状態では、時計表示マークのボタン、炎表示マーク(運転)ボタン以外は機能しません。

② 時刻設定

(1) [０：００] ← 時計表示(２４時間表示)

８８：８８表示、表示無しの時

「時計表示マークのボタン」を押すと、時計表示となり時計動作がかいしされ、「 ： 」が点滅します。

(2) △(UP)ボタン又は、▽(DOWN)ボタンを押して時刻を合わせて下さい。

(3)ボタン操作をしませんと１０秒後に表示は消えます。

※当社で、あらかじめ時刻設定してありますので、この８８：８８表示はありません。

③ 運 転

[炎マーク ：３０] ← 運転時間表示

(1) 手動運転

炎マークボタンを押すと運転が開始され、運転(残り)時間が表示されます。

④ 運転中の運転時間変更

(1) 運転時間表示状態の時、△ボタン又は、▽ボタンを押して任意の時間を設定して下さい。(０～２４時間)

② 運転中の手動停止

(ア) 炎マークのボタンを押すと、運転停止し、表示は消えます。

③ 運転中の熱量レンジ手動切り替え

(ア) 運転時間表示状態の時、ＳＥＴボタンを押すと熱量レンジ切り替え手動運転モードになります。右端の「熱量レンジ表示」が点滅します。

[炎マーク ：３０ 1] ←熱量レンジ切り替え手動運転表示

↑ 熱量レンジ

(イ) 上記点滅中に、△ボタン又は▽ボタンで熱量を切り替えて使用下さい。

ボタン操作をしませんと、１０秒後に、連続点灯になり、燃料レンジが確定します。 １:LOW（初期表示） 2:MID ３:HI

(ウ) 再び熱量を変更するには、SET ボタンを押すと、熱量レンジ表示が点滅するので△▽ボタンで切替えて使用できます。

(エ) 熱量表示点滅中に SET ボタンを押すと、熱量レンジ切り替え手動モードは

解除されます。

注意(本体の動作)

１．着火モード中(燃焼動作開始後５～６分)は、熱量レンジ設定を１:LOW や２:ＭＩＤにしても、３:HI に固定されております。定常燃焼に入ってから燃焼レンジ切り替えが可能になります。

この他の説明は、省略します。（ミクニヒーター取り扱い説明書をご覧ください。）

(オーナーよりワンポイントアドバイス)

※以上ヒーターの取り扱いについて、長々と説明しましたが、真夏に利用するお客様には、必要ないことかもしれません。　万が一寒くてヒーターを必要とした時には、「炎マーク」ボタンを１度押すと自動的に着火し３０分後に自動的に消火します。途中で消火したい時は、同じボタンの「炎マーク」を 1 度押せば自動的に消火されます。・・・・これだけでOK でしょう。

１１。ブレーカーについて

・キッチンキャビネット下部の扉内に２個のブレーカーが設置されています。

・２個並んでいるブレーカーの手前がコンバーター入力用で、奥が冷蔵庫及び AC100 ボルトコンセント用です。

※通常は、ON にしたままで使用してください。

注意 ・電力を一度に使いすぎるとブレーカーが落ちて、OFF になります。 このような時は、使用している電力を減らしてから、ブレーカーを ON にしてください。
・使用電力を減らしてもブレーカーが落ちる時は、すみやかに使用を停止し、点検を受けて下さい。

１２。レンジフード＆集中スイッチパネル

・レンジフードパネルには、給水タンクレベルメーター・排水タンクレベルメーター・バッテリーチェッカー・時計などの各検知装置のほか、器具類スイッチが集中して配置されています。

①「Ｐｏｗｅｒ　Ｅｘｈａｕｓｔ」（換気扇スイッチ）

・つまみ左側面に出ているストッパー（黒くて、すこし見えにくいです。）を押しながら引き出すと、レンジフードグリルが開き、同時にレンジフード換気扇スイッチが入ります。

②「Ｈｏｏｄ　Ｌｉｇｈｔ」（レンジフードライトスイッチ）

③「ＬＰ　Ａｌａｒｍ」（ＬＰガス使用のときＯＮ、同時にアラームシステム作動）

④「Ｗａｔｅｒ　Ｈｅａｔｅｒ」（湯沸かし器を作動させるためのスイッチです。）
注意　事前にウオーターヒーター内に水が入っていることを確認してからのスイッチＯＮが必要です。（※ＬＰガスの使い方の項を参照してください。）
⑤「Ｗａｔｅｒ　Pump」（ウオーターポンプスイッチ）
・給水タンクから蛇口・シャワー（外部シャワーも）へ水を送るポンプのスイッチです。（給水タンクに水を入れてから操作してください。）
⑥「Ｍｏｎｉｔｏｒ」（モニタースイッチ）
（次の⑦～⑪のインジケーターを作動させるスイッチです。
⑦「Ｂａｔｔｅｒｙ」（バッテリーインジケーターランプ）
電装機器をＯＦＦにして確認してください。サブバッテリーの充電状態の目安となります。　緑ランプ：良好　黄色ランプ：やや弱い　赤ランプ：要充電
⑧「ＬＰ　Ｇａｓ（ＬＰガスインジケーターランプ）
※ＬＰガスインジケータは使用しておりません。（システムが付いていません。）
⑨「Ｈｏｌｄｉｎｇ　Ｔａｎｋ（排水タンクインジケーターランプ）
排水タンク内の水量を表示します。
Ｅ，１／３，２／３，Ｆのランプが水量に応じて点灯します。（満水は、100Ｌです。）
⑩「Ｆｒｅｓｈ　Ｗａｔｅｒ　Ｒ　」（給水タンクインジケーターランプ）
※このインジケーターは給水タンクが１つのため使用しておりません。
⑪「Ｆｒｅｓｈ　Ｗａｔｅｒ　Ｌ　」（給水タンクインジケーターランプ）
給水タンク内の水量を表示します。
Ｅ，１／３，２／３，Ｆのランプが水量に応じて点灯します。（満水は１００Ｌです。）
⑫デジタル時計（2wd の時計は、現在使用を中止していますので、使用できません。）

１３．照明器具の使い方は、省略します。
１４．シャワールームベンチレーター(換気システム)の使い方についても省略します。
１５．ルーフベンチレーター（室内換気システム）についても省略します。
１６．テレビ・テレビアンテナの使い方についても省略します。
１７．給水の仕方についても省略します。（貸し渡しのとき説明いたします。）
１８．排水の仕方についても省略します。（貸し渡しのとき説明いたします。）
１９．トイレの使い方・給水の仕方・汚物タンク排出の仕方は、引渡し時に説明します。
２０．リクライニングシートの使い方についても引き渡し時に説明します。
２１．テーブルの使い方・バンクベットの作り方についても引渡し時に説明します。
２２．収納庫の使い方・ステップボードの使い方も上に同様です。
２３．サイドオーニングの使い方・リアキャリアの使い方についても上に同じです。
２４．スペアタイヤ・ジャッキの取り出し方については、省略します。(別紙車の説明書あり。）
２５．インバーター(DC12→AC100)を装備していますので、エンジン駆動時に２００ｗま

での１００ｖ電源が使用できます。(携帯電話の充電にお使いください。)説明省略します。
２６．最後に「キャンピングカーを運転する時の注意点」を記しておきます。

①走行前の確認を念入りに

・キャンピングカーは装備が多いため、通常の始業点検に加え、次の事項も確認してください。

※外部後ろの１００ボルト差込プラグを抜いてコードを収納したか。

※ガスボンベの元栓をしめたか。

※各収納庫を収納しロックしたか。

※荷物は確実に固定したか。（バイクキャリア・スキーキャリア等）

※サイドオーニングは、収納したか。

※ハネ上げ式ウインドウは、閉めたか。（シャワールーム）

※ドアはロックしたか。

②キャンピングカーは、一般乗用車に比べて重心が高いため、走行中のローリング（横揺れ）や、ピッチング（縦揺れ）が大きくなります。また、車体表面積が大きく、横風の影響を受けやすいので、高速走行時などは特に注意し、安全運転を心がけてください。

②　ボディー後部の接触に注意

・この車は、一般乗用車とくらべて、リヤオーバーハング（後車輪から最後部までの寸法）が長くなっています。このため、段差のある場所や、急角度ハンドルでの運転時には充分注意してください。（利用の際、オックス説明書８１ページ参照下さい。）

以上、初めてキャンピングカーを利用する方への予備知識として、取り扱い説明書の抜粋で作成してみました。参考になれば幸いです、また、説明不足な点、疑問点などありましたら、問い合わせくださいませ、ご利用をお待ちしております。

2005．６．１３作成
2005．６．２７一部訂正
2005．７．３０一部訂正
2005．８．２７追加説明
2006．２．８　追加説明
2006．２．２５インバーター説明を追加
2006．３．７一部訂正
2006．１１．２６一部訂正
2007．７・２０オーバーヒート追加説明

レンタルキャンピングカー・オアシス代表　武田　康行